

公益社団法人日本地震工学会 第56回理事会議事録

A.日時：2022年3月11日（金） 15時00分～18時40分

B.場所：Zoom オンライン開催

C.出席者：（会長）清野純史，（副会長）山中浩明，藤田 聡，松岡昌志

（担当理事）米澤健次，西村拓也，樋口俊一，古屋 治，隈本邦彦，鳥澤一晃，

池田隆明，能島暢呂，松島信一，市村 強，肥田剛典，近藤伸也

（監事） 五十田博，末富岩雄

欠席：（担当理事）久保智弘

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長，小松康典事務局長

D.議題および提出資料：

議題

報告事項

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 第55回理事会議事録（案）の確認（西村理事） | 資料 56-01 |
| 2) 総務・会計部会、第21回拡大正副会長会議報告（米澤理事） | 資料 56-02 |
| 3) 会務報告（米澤理事） | 資料 56-03 |
| 4) 広報部会からの報告（隈本理事） | 資料 56-04 |
| 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事） | 資料 56-05 |
| 6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事） | 資料 56-06 |
| 7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事） | 資料 56-07 |
| 8) 論文集編集委員会からの報告（能島理事） | 資料 56-08 |
| 9) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事） | 資料 56-09 |
| 10) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長） | 資料 56-10 |
| 11) 将来構想委員会からの報告（山中副会長） | 資料 56-11 |
| 12) 内閣府立入検査の報告（米澤理事） | 資料 56-12 |
| 13) メール審議（1件）結果報告（米澤理事） | 資料 56-13 |
| 14) 第16回日本地震工学シンポジウムの運営進捗報告（西村理事） | 資料 56-14 |

議案

- | | |
|--|----------|
| 第1号 入退会者・会費未納入者（西村理事） | 資料 56-15 |
| 第2号 会誌編集委員会の令和4年度新委員の委嘱 | 資料 56-16 |
| 第3号 共催・後援・協賛等（米澤理事） | 資料 56-17 |
| 第4号 令和4年度事業計画（案）（西村理事） | 資料 56-18 |
| 第5号 令和3年度収支見込と令和4年度収支予算書（案）（樋口理事、古屋理事） | 資料 56-19 |
| 第6号 今年度の表彰について | |
| (6-1) 功績賞（米澤理事） | 資料 56-20 |
| (6-2) 功労賞・感謝状贈呈（米澤理事） | 同上 |
| (6-4) 論文賞（松岡副会長） | 資料 56-21 |
| (6-5) 論文奨励賞（能島理事） | 資料 56-22 |
| 第7号 役員選挙の電子投票導入に伴う選挙規定の改定について（樋口理事） | 資料 56-23 |

懇談事項

1) 2022年社員総会について（米澤理事）	資料 56-24
2) 令和3年度事業報告（案）について（米澤理事）	資料 56-25
3) 新理事の候補者について（米澤理事）	資料 56-26
4) 積立金・余剰金の有効活用について（米澤理事）	資料 56-27
5) 防災学術連携体「防災科学の基礎講座：学協会企画案」募集について（樋口理事）	資料 56-28
6) 今後の予定について（米澤理事）	資料 56-29
7) 論文賞細則の改定について（松岡副会長）	資料 56-30

E.議事録：

議題

報告事項

- 1) 第55回理事会議事録（案）の確認（西村理事）
 - ・ 西村理事より資料 56-01 に基づいて第55回理事会議事録（案）の確認が行われ、特に修正事項はないことが確認された。
 - ・ 有賀事務局員が3月で退職することとなった。また、前回の理事会で承認された法人クレジットカードの作成について、清野会長の個人情報が必要となることから現状では作成できていない。

- 2) 総務・会計部会、第21回拡大正副会長会議報告（米澤理事）
 - ・ 米澤理事より資料 56-02 に基づいて総務・会計部会、第21回拡大正副会長会について報告が行われた。
 - ・ 事務局のOA環境を整えるべきとの意見があり、事務局の在宅勤務に対応するためノートPCを2台購入し、事務局へ貸与することが提案された。
 - ・ 総務・会計部会、第21回拡大正副会長会の報告ならびに上記の提案について、特に異議なく確認された。

- 3) 会務報告（米澤理事）
 - ・ 米澤理事より資料 56-03 に基づいて会務報告が行われた。1月13日に開催された事業企画委員会を資料 56-03 へ追記することが確認された。

- 4) 広報部会からの報告（隈本理事）
 - ・ 隈本理事より資料 56-04 に基づいて広報部会からの報告がなされた。2022年3月13日までに2月末に発刊された日本地震工学会誌第45号を国土交通省、文部科学省、気象庁の各記者クラブへ投込・送付を行った。特に異議なく確認された。

- 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）
 - ・ 久保理事に代わり米澤理事より資料 56-05 に基づいて報告がなされた。
 - ・ 4月末発行のNEWSLETTER、来年度の委員会体制およびメールニュース巻頭言執筆依頼について報告がなされた。
 - ・ ホームページのセキュリティ更新作業中である。また本年5月にサーバー更新後にアーカイブをアップロード予定である。久保理事は委員として来年度も委員会へ参加する。
 - ・ 久保理事は欠席であるため、質問等があれば、全理事宛でのメーリングリストで伝えることとする。

6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）

- ・ 鳥澤理事より資料 56-06 に基づいて会誌編集委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 2月に発刊された会誌第45号の概要および6月発行予定の会誌第46号編集の状況が報告された。第46号の特集は「機械工学と地震工学の融合（仮）」についてであり、原稿執筆者に内諾をいただいている最中である。また研究委員会からの報告も掲載予定である。
- ・ 来年度の委員会のメンバー構成について説明がなされた。

7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事）

- ・ 池田理事より資料 56-07 に基づいて国際委員会、地震災害対応委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 地震災害対応委員会では、鹿児島県トカラ列島近傍の地震被害について情報がほとんど集まらなかった。代わって1月22日に発生した日向灘の地震および被害についてWEBサイトにて情報提供中である。
- ・ 国際委員会では、Newsletter 4月号の英文記事を海上・港湾・航空技術研究所のDr. Wuに依頼し快諾いただいた。Newsletter 8月号の英文記事執筆者を選定中である。
- ・ 将来構想委員会との打ち合わせ結果を反映し、英文記事のダイジェスト版の作成、および海外の地震工学関連学会との連携の準備を予定している。他国の学会に関する情報をお持ちの理事は池田理事へ情報提供を行うこととする。

8) 論文集編集委員会からの報告（能島理事）

- ・ 能島理事より資料 56-08 に基づいて論文集編集委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 2/25 に論文奨励賞候補者を論文賞選考委員会へ推薦した。次回委員会は3/31開催予定である。JST開催のセミナー・説明会に参加し、情報を委員会内で共有する。
- ・ 論文集の発行、査読状況および今後の発刊予定が報告された。年間の投稿件数のペースは42編の新規投稿となっている。
- ・ ダイレクトに投稿される英文論文数は少数である。かなりの部分は英文化論文である。
- ・ 今回の報告では不採用が0となっている。一方、前回の報告では不採用が2件であった。採用率はこれまでと大きく変化していない。

9) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事）

- ・ 肥田理事より資料 56-09 に基づいて、事業企画委員会（企画）からの報告がなされた。
- ・ 一般・中高生向けの講習会を企画中である。開催は2022年度夏休みを予定。体験型の講習会とし、具体的な内容を引き続き検討する。
- ・ 2022年度の理事候補が報告された。
- ・ E-ディフェンスの振動台実験の現地見学会を1月24日に実施。申し込みは39名であったが、最終的には25名の参加であった。コロナ感染防止のためバス2台を利用した。このため収支は約8万円の赤字であった。
- ・ 第12回震災予防講演会の企画として、「首都直下地震と都市防災」について3名の講師からの講演を2/4にパシフィコ横浜アネックスホールにて対面にて実施した。参加者は約100名であったが、キャンセル待ちをした参加者もいたようである。会誌6月号に講演会の報告を掲載

予定である。

- ・ 次期理事は社員総会で決定されるので、資料 56-09 では「次期理事の候補者を下記の二名とした。」と修正することが確認された。

10) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長）

- ・ 清野会長、小松事務局員より資料 56-10 に基づいて、17WCEE 運営委員会からの報告がなされた。特に異議なく確認された。
- ・ 現地開催の 1 週間前から Extended Conference Period (ECP) を設け、ビデオ動画や発表資料を事前に公開し、現地開催の約 3 か月後まで延長しセッション動画についてもオンデマンド公開した。オンラインにて延べ 13,300 名が参加した。WCEE の一環として、一般市民を対象とした講座が開催された。次回は 2024 年にイタリアのミラノで開催される予定である。
- ・ 100 ページ程度の報告書が作成されており、最終的な報告会が開催される予定である。
- ・ 事業全体の収入は約 2 億 7400 万、通算の支出は約 2 億 6300 万となり、収支差額は 1130 万円の見込みである。2021 年度単年の収支差額としては約 1700 万円の黒字である。
- ・ 日本学術会議から助成金として 496 万円をいただいたが、日本学術会議より直接仙台の会場費に当該金額を支払ったので、これは JAEE の会計と別建てとしている。
- ・ 返金しなければいけない金額が発生し、200 万円弱がまだ返金できていない。これを地震工学会が来年度以降引き継ぎ、今後 1 年間は対応する予定である。会計処理として 2021 年度末決算では預り金として計上する予定である。
- ・ 仙台市から大規模国際コンベンション補助金として最大 1,000 万円の助成をいただく。この補助金は収支関連資料の提出後に支払われることとなっている。昨日仙台市に収支関連資料を提出したため、現段階では補助金が入金されていないが、3 月中に入金される予定である。17WCEE の支出の中には、まだ実施されていないが今後実施する予定の項目（最終報告会の交通費・会議費、仙台市御礼挨拶交通費等）の計約 70 万円が含まれている。
- ・ 今後実施予定の項目が実施されずに支出が減ってしまう場合、日本学術会議、仙台市にはコロナ禍の影響であることからご理解はいただいているとの報告がなされた。

11) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より資料 56-11 に基づいて、将来構想委員会からの報告がなされ、特に異議なく確認された。
- ・ 2/1 に第 13 回 WG が開催され、市村理事、松島理事が参加し年次大会について議論を実施した。3/7 に第 14 回 WG を開催し、学会の国際化、留学生について池田理事も参加し議論を行った。いくつかの案は池田理事より実施予定として示されている。
- ・ あと 2 回程度理事との議論を実施した後に、5 月までに提言に向けた作業を実施し、期が変わった後に具体的に取りまとめを行う予定である。

12) 内閣府立入検査の報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-12 に基づいて、内閣府立入検査の報告がなされ、特に異議なく確認された。
- ・ 1/19 に建築会館会議室にて 2 名の内閣府調査官により内閣府立入検査が実施された。事務局にて事前に準備が実施され、細かい指摘はいくつかあったが大きな指摘はなく、滞りなく検査は無事終了した。

13) メール審議 (1 件) 結果報告 (米澤理事)

- ・ 米澤理事より資料 56-13 に基づいて、メール審議 (1 件) 結果報告がなされ、特に異議なく確認された。
- ・ 第 26 回震災対策技術展・横浜の後援についてメール審議を実施した。特に意見はなく全理事より承認が得られ、本審議は承認された。

14) 第 16 回日本地震工学シンポジウムの運営進捗報告 (西村理事)

- ・ 西村理事より資料 56-14 に基づいて、第 16 回日本地震工学シンポジウム (16JEES) の運営進捗報告がなされた。
- ・ 第 21 回拡大正副会長会議では久田委員長、小檜山幹事長より、進捗状況についての報告がなされた。報告内容はメインテーマ案、会場・開催日時案、部会構成と幹事および委員の選定状況、概算予算案、共催学会案及び今後の予定であった。会場は関東大震災 100 周年と交通の便を考慮してパシフィコ横浜 (ノース) とし、開催日は他学会のイベントと重ならない日程の中から 2023 年 11 月 23 日から 25 日の 3 日間を予定している。概算予算では、前回よりも会場費、業務委託費およびハイブリッド関連の支出が増えている。予算の不足分は過去の積立金の利用を想定しているが、正副会長会議にて関東大震災 100 周年記念の特例として説明は可能であるとの意見が挙げられた。
- ・ 16JEES 運営委員会準備会が 3/4 に開催された。運営委員会各部会の委員候補者案が提出された。今後委員候補者への内諾を得る予定である。また日時・会場について準備会にて議論がなされ、利用予約の確定や予約金支払いについて第 56 回理事会にて審議いただくことになった。
- ・ パシフィコ横浜ノース 4F の利用予約について、見積書、予約確定締め切り期日及び予約金支払い期日と支出額について説明がなされた。利用料見積額は約 471 万円 (税込)、予約確定の返答期日は 3/18 であり、予約確定後の施設利用申込書の提出、4/18 までに予約金として見積額の 10%を支払うこととなる。予約確定後、キャンセル時は見積額の 30%を支払う必要がある。
- ・ 上記の予約確定の返答、施設利用申込書の提出および予約金の支払いについて、異議なく承認された。
- ・ 16JEES 運営委員会準備会にて JCOSSAR と 16JEES の開催日程が重ならないことを確認するべきとの意見が挙げられた。JCOSSAR の開催は 2023 年 10 月を予定しており、現状では日程が重ならないことを運営委員会にて確認している。

上記の通り出席した業務執行理事より業務報告がなされた。

議 案

第 1 号 入退会者・会費未納入者 (西村理事)

- ・ 西村理事より資料 56-15 に基づいて入退会者・会費未納入者の報告がなされた。特に異議なく承認された。新たに正会員の方 2 名、学生会員 1 名の年会費納入が確認され、2022 年 3 月 11 日現在の年会費未納者は学生会員 : 13 名、正会員 : 20 名、法人会員 : 1 件となった。
- ・ 未納者へは 4 月の新年度会費納入依頼で、再度、旧年度分も納入のお願いを通知する。それでも未納の場合は、6 月の理事会にて会員資格停止およびサービスを停止する。
- ・ 資料 56-15-4 に記載された会費未納会員の中に知り合いがいたらお声がけいただきたいとの依頼があった。

第 2 号 会誌編集委員会の令和 4 年度新委員の委嘱 (米澤理事)

- ・ 米澤理事より資料 56-16 に基づいて会誌編集委員会の令和 4 年度新委員について報告がなされた。3 人が退任され、新たに 3 人が就任される。会誌編集委員会の令和 4 年度新委員について異議なく承認された。

第 3 号 共催・後援・協賛等（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-17 に基づいて後援 1 件、協賛 2 件が報告され、異議なく承認された。

第 4 号 令和 4 年度事業計画（案）（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 56-18 に基づき令和 4 年度事業計画（案）について説明がなされた。本事業計画（案）は、本理事会で承認が得られ次第、3 月末に内閣府に提出することの説明があった。
- ・ 3.（4）日本地震工学論文集に関する説明文内において、英文化論文集を英文論文集へ修正するように指摘があった。
- ・ 資料 56-18 の令和 4 年度事業計画（案）は、上記の修正を行うこととし、その他は特に異議がなく承認された。各理事にて事業計画（案）を確認し、修正追記があれば 3/18（金）までに西村理事へ連絡することとする。

第 5 号 令和 3 年度収支見込と令和 4 年度収支予算書（案）（樋口理事、古屋理事）

- ・ 樋口理事、古屋理事より資料 56-19 に基づいて令和 3 年度収支見込と令和 4 年度収支予算書（案）について説明がなされた。
- ・ 2021 年度の事業活動収入は、WCEE や ESG6 などを開催したため約 3 億円となっている。事業費の支出は WCEE の経費により 2 億 7000 万円程度、管理支出は 1000 万円程度である。2021 年度の当期収支差額はプラス約 335 万円、次年度繰越収支差額は約 1823 万円の見込みである。2021 年度正味財産増減計算書内訳資料の公益目的事業会計の当期経常増減額は、約 847 万円のプラスとなり収支相償は未達となる。
- ・ 2022 年度の事業活動収入は、大きなイベントがない通常の年度と同様に 2000 万円程度となる。また事業費支出、管理費支出がともに 1100 万円程度となる。さらに役員選挙投票システムおよびイベント参加システムの構築による特定資産取得支出として約 140 万円を計上している。2022 年度正味財産増減計算書内訳資料の公益目的事業会計の当期経常増減額は約 759 万円のマイナスとなり、収支相償はクリアしている。
- ・ 予算原案は理事会で承認後、3 月末に内閣府へ提出する。令和 4 年度収支予算書（案）は特に意義なく承認された。

第 6 号 今年度の表彰について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-20 に基づき、功績賞、功労賞および感謝状贈呈について説明がなされた。
- ・ 今年度の功績賞に関して久保哲夫先生、吉田望先生の 2 名を推薦することが説明された。推薦書執筆者は、久保先生については中埜前会長、吉田先生については末富幹事に依頼している。
- ・ 功労賞は徳光前総務理事、17WCEE 運営委員会を推薦することが説明された。推薦者はいずれも山中副会長とする。
- ・ 17WCEE の津波ブラインドコンテストへの貢献により電力中央研究所・地球工学研究所への感謝状の贈呈について説明があった。理由書は中埜前会長に執筆いただいている。
- ・ 功績賞、功労賞、感謝状贈呈について異議なく承認された。
- ・ 松岡副会長より資料 56-21 に基づき、令和 3 年度の論文賞の候補について説明がなされた。論文賞選考委員会にて細則に基づき選考した結果、安田氏等の「2016 年熊本地震により阿蘇カ

ルデラで発生した帯状陥没のメカニズム」ならびに桑原氏等の「機械学習を用いた日本全国の液状化危険度の推定」の論文2編を推薦することの説明があった。

- ・ 能島理事より資料 56-22 に基づき、令和3年度の論文奨励賞の候補について説明がなされた。論文奨励賞細則に基づき論文集編集委員会にて審議を行い、桑原光平氏（東京工業大学大学院）と長嶋史明氏（京都大学防災研究所）の2名を選出し、論文選考委員会へ推薦した。
- ・ 論文賞と論文奨励賞は選出委員が異なり、厳正に選出された結果、論文賞と論文奨励賞が同じ論文であった。
- ・ 表彰委員会で、桑原光平氏の論文奨励賞に選定された2つの論文のタイトルがいずれも機械学習を用い、考え方が似ている点が議論となったことが説明された。論文として独立していること、および規則としては問題ない点を確認し、表彰委員会にて承認された。
- ・ 本理事会にて、論文賞および論文奨励賞の授賞が承認された。

第7号 役員選挙の電子投票導入に伴う選挙規定の改定について（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 56-23 に基づき、役員選挙の電子投票導入に伴う選挙規定の改定について説明がなされた。
- ・ 役員選挙の電磁的方法について選挙規程に記載がないため、実際に役員の電子投票を実施するにあたり選挙規程の改定が提案された。選挙規程の投票（第14条）、投票の効力（第15条）および記録の保存（第22条）について改定案の説明がなされた。改定案は異議なく承認された。
- ・ 会員への電子投票への意思確認方法について、現在電子メールが届かない会員は10名程度であり、その方々には個別に郵送等で電子投票導入のお知らせや今後の投票方法の希望を伺うこととする予定である。
- ・ 電子投票システムが完成した際には、各理事に模擬投票を依頼する予定である。今のところ5月頃の予定である。

懇談事項

1) 2022年社員総会について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-24 に基づき、2022年社員総会について説明がなされた。
- ・ 5/24に建築会館にて実施を予定しており、予約を行っている。ただし、コロナ感染の状況が落ち着かない可能性もあり、開催方法について前回の正副会長会議にて議論を行った。その結果正副会長会議では前回と同様にオンライン+運営スタッフが少人数で会議室にて参加として実施することとした。
- ・ また表彰式についても議論され、正副会長会議では表彰式については年次大会で実施する案とすることとした。
- ・ 社員総会はオンライン+会議室参加にて実施することとし、本理事会にて異議なく承認された。
- ・ これまで表彰状に記載される日付は贈呈した日付としている。
- ・ 受賞者は4月にホームページで公開されるが、社員総会の資料には出てこない。今回の結果は受賞者へ4月の初めまでに本人へ連絡する。受賞者からホームページへの掲載を早めにしてほしいとのリクエストはこれまでもあった。ホームページにはできるだけ早く掲載することとする。
- ・ 規程では社員総会で賞状を授与することが記載されている。年次大会で表彰した方がよいという意見がある理由としては、年次大会の方が人は集まるのでその中で表彰された方がよいのではとの意見があったためである。来年度までは年次大会で授賞式を実施することについては、

コロナ禍という理由で規定を超えて現実的な対応を行うという観点から理解されるものと考えられる。

- ・ 社員総会では表彰式は実施しないが、受賞者の紹介は行うこととする。表彰する日付は社員総会の日にし、2022年度年次大会にて表彰式等を行うこととして、本理事会にて承認された。

2) 令和3年度事業報告（案）について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-25 に基づき、令和3年度事業報告（案）について説明がなされた。
- ・ 事業報告は次回の理事会にて議案に挙げ承認を得たのち、社員総会の資料となる。
- ・ 各担当部分を確認の上、追記修正等があれば米澤理事へ連絡することとする。

3) 新理事の候補者について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-26 に基づき、新理事の候補者について説明がなされた。2022年度の理事の分野も幅広く、土木、建築、地震、地盤、機械、情報の分野が全て含まれている。正式には社員総会にて決定される。

4) 積立金・余剰金の有効活用について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-27 に基づき、積立金・余剰金の有効活用について説明がなされた。積立金の中には十分に活用されていないものが見られ、会員への周知とともに有効な活用方法を検討したいとの説明があった。
- ・ 17WCEE の余剰金が約 830 万円あり、支出計画案を検討する必要がある。案としては、ハイブリッド対策積立金、公益目的保有財産の取得、震災記念関連事業積立金の新設、オンライン配信用講習会、講座の製作の必要費用へ支出し、新たな収入源の確保を目的とした事業へ投資が説明された。
- ・ 2021 年度の収支相償未達による余剰金見込み額の消化計画については、事務局の方で内閣府調査官のご指導をいただいているところである。当学会の場合は、2021 年度のみ収支相償が未達であり 2022 年度以降は、収支相償がクリアできる見通しであることから、2021 年度に収支相償が未達となった理由を 6 月の事業報告資料に明記すればよいのではとのご助言をいただいているが、2021 年度の決算で余剰金額が確定した段階であらためてご指導をいただくことにしている。
- ・ 17WCEE の余剰金を特別事業積立金へ組み込むこととなっても、地震工学会の自由裁量であってもその有効利用の方法を検討する必要がある。
- ・ 特別事業積立金へ 2021 年度に 1130 万円を積み立てることにしている。17WCEE 開催で特別事業積立金から約 600 万円を捻出しており、その分を余剰金から特別事業積立金へ返却し、今後の日本地震工学シンポジウム開催に向けて安定した財務基盤を構築するために、残りの余剰金を日本地震工学シンポジウム積立金に積み立てる案も考えられる。
- ・ 中短期的に今後の収入源確保に向けた事業は重要であるとの意見が挙がった。

5) 防災学術連携体「防災科学の基礎講座：学協会企画案」募集について（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 56-28 に基づき、防災学術連携体「防災科学の基礎講座：学協会企画案」募集について説明がなされた。講座をウェブで公開するために、防災学術連携体より協力依頼があった。
- ・ 地震工学会で用意できているコンテンツがあればよいが現状はないため、学会として協力するためにはコンテンツを新たに製作する必要がある。

- ・ 3月で終了する研究委員会にて製作してもよいというなら製作してもらえばよいのではないかと意見が挙がった。ただし、コンテンツの構成の検討、製作したコンテンツへのチェックが必要であり、どんなレベルで提出すべきかがよく分からない、また記録として残るので慎重に作成する必要があること、一から製作となると簡単ではなく時間がないなどの意見も挙がった。
- ・ 学会として参加した方がよいのは分かるが、提供すべき資材がないために今回は参加しないこととし、承認された。

6) 今後の予定について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 56-29 に基づき、今後の予定について説明がなされた。
- ・ 事業計画、予算案について各担当理事にて確認し、修正追記があれば、3/18 までに総務理事、事務局へ連絡する。第 56 回理事会議事録も 3 月に内閣府へ提出するため、3/18 までに修正追記があれば、全理事、監事へ連絡をする。
- ・ 事業報告については 4/6 の監査会までに完成版を作成する。各担当部分を確認し、修正追記があれば米澤理事、事務局へ連絡する。
- ・ 部会、委員会へ引継ぎ依頼メールを発信予定である。次年度への申し送り事項の取りまとめを進める。退任理事は社員総会の日時の予定（5/24PM）を新理事にお知らせし、出席いただけるように依頼する。
- ・ 社員総会のシナリオや役割分担について、次回理事会にて懇談事項として確認する予定である。

7) 論文賞細則の改定について（松岡副会長）

- ・ 松岡副会長より資料 56-30 に基づき、論文賞細則の改定について説明がなされた。
- ・ 論文賞委員会の対象は過去 2 年間の間に掲載された論文であるが、現状の細則では英文化された論文も対象となると誤解される。英文化論文の日本語のオリジナル論文が 2 年間の対象に入っていない場合は審査の対象とならないので、論文賞細則に明記するように改定する。
- ・ 英文化論文の言葉がオーソライズされているかを松岡副会長にて確認し、次回の審議事項とする。

8) その他

- ・ 次回の理事会では理事会後に懇親会を予定することとし、理事会開始時間を 15 時からとする。

次回予定：第 57 回理事会 4 月 8 日（金）15 時～18 時

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 清野 純史

監事 五十田 博

監事 末富 岩雄